

Mission: Engineering for Sustainable Growth of the Global Community

Vision: Global Leading Engineering Partner

Values: Integrity, Creativity, Diversity, Learning, Team



経営方針

2019年3月期 決算説明会

2019年5月15日

東洋エンジニアリング株式会社

1. 2019年3月期 業績
2. 米国エチレン状況
3. 米国エチレン損失発生要因総括
4. 失敗を繰り返さないために（2015年度以降実施/強化事項）
5. その他プロジェクト状況
6. 主要プロジェクト
7. 市場環境と受注目標
8. 2020年3月期 業績見通し

1. 2019年3月期 業績

- ◆ 米国エチレンのコスト増により、56億円の営業損失
- ◆ 経常利益は34億円を計上するも、8億円の最終損失

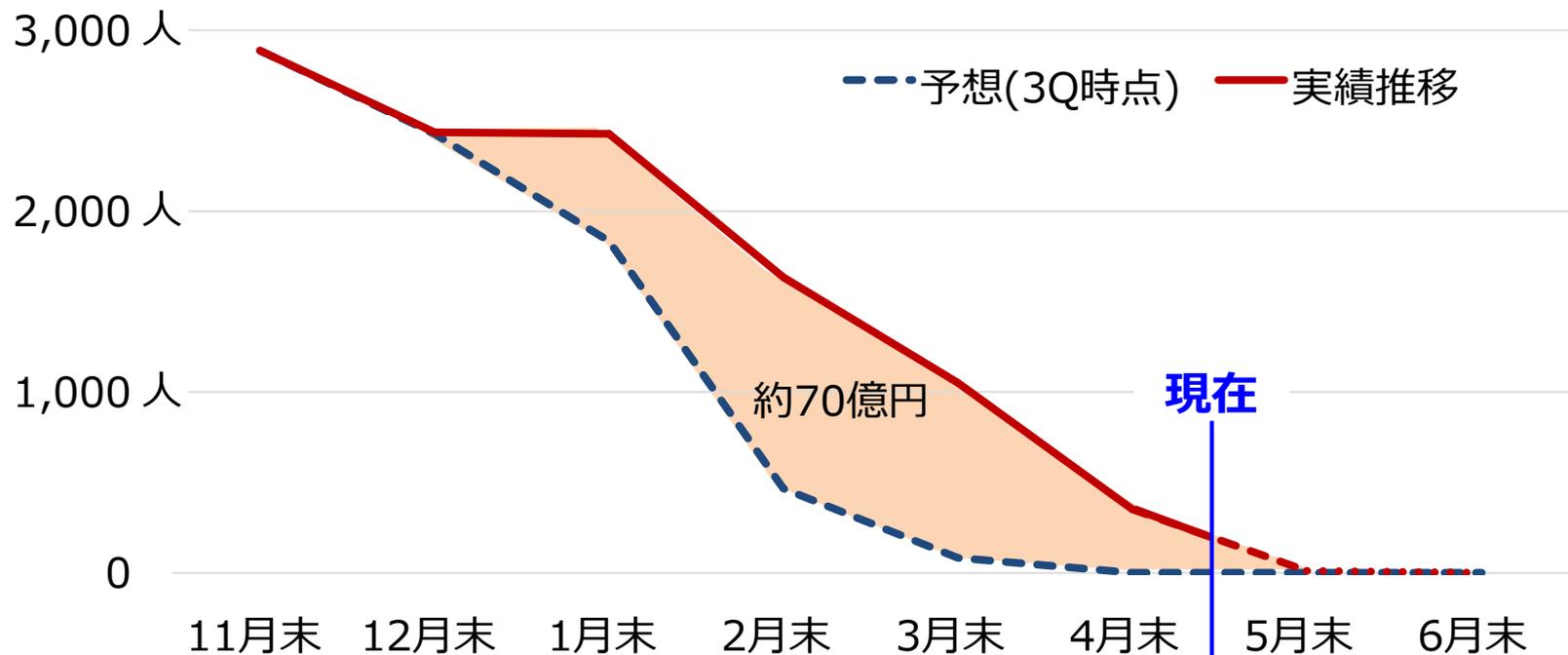
(単位：億円)

	決算	通期見込 2018/5/15付	差異
売上高	2,949	3,000	△51
売上総利益	106	210	△104
売上総利益率	3.6%	7.0%	△3.4%
販管費	162	190	28
営業利益	△56	20	△76
営業外損益	90	5	85
経常利益	34	25	9
当期純利益	△8	10	△18
受注高	2,980	3,000	△20

- ◆ 受注残高：4,263 億円
- ◆ 配当見込：無配

2. 米国エチレン状況

- ◆ 工事完了し、スタートアップ作業中
- ◆ 引渡しまでの追加コスト 100億円計上(対3Q決算比)
 <内訳> 工程変更等によるワーカー増員コスト：約70億円
 その他(追加資機材費・建機代等)：約30億円
- ◆ ワーカー動員数推移状況 (2018年11月以降)



3. 米国エチレン損失発生要因総括

- ◆ 契約金額：1,500億円 総損失額：△800億円
- ◆ 損失発生の根本的要因：
 - ① 契約形態の捻れ
対オーナー ランプサム契約、対サブコントラクター T&M*契約
 - ② 熟練工不足と低生産性による人件費の増加
 - ③ プロジェクト初期段階でのつまずき(サブコン選定・杭工事)
 - ④ 米国的手法(T&M)におけるサブコン管理力不足

*T&M: Time & Materials

◆ リスク審査の徹底による選別受注

- 得意商品・得意地域のプロジェクトに絞った受注活動
- 重要・新規性ある案件のリスク対策につき取締役会によるガバナンスを強化
- 経営トップ（社長・副社長・CFO）による共同決裁の下、最終見積を提出
- 北米案件では、工事リスクを遮断

◆ EPC実行力とプロジェクト管理の強化

- 未経験技術の徹底検証 と プロジェクト間のフィードバック共有
- 「工事・運転」を重視した設計・調達の徹底
- 工事管理の強化（現場状況のリアルタイム把握 等）
- プロジェクト規模・リスクに合った要員配置

◆ マレーシア・エチレンプロジェクト

- 工事完了し、スタートアップ作業中
- 隣接するリファイナリーでの火災事故(2019/4/12)による設備被害は無し

◆ その他プロジェクト

- 受注プロセスを見直した2015年度以降の受注案件は順調に進捗
- 2018年度の主な完工案件は、成功裏に引渡し済
(瀬戸内メガソーラー、トルクメニスタン・ガス石化、インド・肥料 等)

6. 主要プロジェクト

2019年3月31日現在

 ロシア
2018 エチレン
2018 ポリエチレン

 トルクメニスタン
2014 ガス石化コンプレックス★完工

 ナイジェリア
2017 肥料

 インド
2017 肥料
2015 肥料 ★完工

 インドネシア
2018 アクリル酸
2018 ブテン-1・MTBE
2017 ポリエチレン
2017 天然ガス圧縮設備
2015 合成ゴム ★完工
2015 都市高速鉄道 ★完工

 日本
2018 プロピレン精留塔
2018 バイオマス発電 x3基
2018 メガソーラー x1基
2018 ナフサ分解炉増設 x1基
2017 バイオマス発電 x1基
2017 メガソーラー x3基
2014 メガソーラー x1基 ★完工

 タイ
2018 1,3-ブタジエン・1-ブテン
2018 エチレン
2017 ガス発電SPP x1基
2016 ガス発電SPP x1基 ★4基完工
2015 ガス発電SPP x0基 ★5基完工
2014 ガス発電SPP x0基 ★1基完工

 マレーシア
2014 エチレンコンプレックス

 米国
2015 エチレン

※表示は受注年度

7. 市場環境と受注目標

2020年3月期受注目標：3,000 億円

事業区分	市場環境	今期主要案件/取り組み
プラント事業	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 新興国を中心に石油化学、肥料需要は拡大持続 ◆ 国内石化設備の更新ニーズの高まり 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ インド LNG再ガス化設備 ◆ 中国 石油化学 ◆ 国内 石油化学、ガス化学
インフラ事業	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 国内原発代替電力需要の継続 再生エネルギー・ガス火力発電 ◆ 新興国の発電・新交通システム 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 国内 メガソーラー ◆ 国内 バイオマス発電 75MW級 ◆ 国内・東南アジア ガス火力発電
ソリューション ビジネス事業 (旧資源エネルギー事業)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 油田寿命延長案件、随伴ガス処理案件 需要の増加 ◆ 国内有力顧客の海外展開 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 中東国営石油企業向け技術支援 ◆ 国内顧客向け総合的支援サービス
全社	<ul style="list-style-type: none"> ◆ デジタル化の進展によるイノベーションの波 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ DX-PLANT™*の実装加速 ◆ DXoT**による競争力創出

*DX-PLANT™ : プラント稼働をリアルタイム把握できるDigital Twinを活用して運転・保全・ビジネス支援をするTOYO独自のサービス

**DXoT : Digital Transformation of TOYOの略。ITを最大活用して業務変革を目指す全社活動

8. 2020年3月期 業績見通し

(単位：億円)

	通期見込
売上高	2,400
売上総利益	215
売上総利益率	9.0%
販管費	185
営業利益	30
営業外損益	0
経常利益	30
当期純利益	20
受注目標	3,000

◆ 配当：無配（予定）



東洋エンジニアリング株式会社

URL <https://www.toyo-eng.com>

【お問い合わせ】

〒275-0024 千葉県習志野市茜浜 2-8-1

広報・IR部長 飯田 渉

電話 047-454-1681

E-mail ir@toyo-eng.com

本資料に記載されている見通しや業績予想などのうち、歴史的事実でないものは現在入手可能な情報から得た当社の経営陣の判断にもとづき作成しております。実際の業績は、当社の事業領域を取り巻く国内および海外の経済・金融情勢等、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは異なる結果となりうる事をご承知おきください。